

被災地の実情や思い、知って

東日本大震災の被災地取材した本紙連載を本にまとめた
大西暢夫さん 2011.8.18 44p

写真家 本紙連載を本に 大西さん



東日本大震災の被災地取材し、本紙で「東北沿岸6000」・大西暢夫の震災報告」を連載してきた、写真家大西暢夫さん(42)は、聖那池田町片山IIが、連載を本にまとめた。21日午後2時から同町八幡の喫茶「ブルースカフェ」で開く取材報告会で販売し、収益は義援金とする。

た。3回目となる今回は、宮城県から岩手県にかけて、撮影した写真や映像を紹介し、大西さんが感じた思いを語る。報告会で本を300円で販売し、本の収益と入場料2千円は、義援金として福島県聖那町に寄付する。大西さんは「震災から5カ月がたつが、仕事がなく避難所暮らしが続いている被災者もあり、生活の復興はできていない。少しの金額でも支援を継続するものが必要」と断力を呼び掛ける。

大西さんは5月から2回、同店で報告会を開き、入場料38万5千円を義援金として被災地に寄付し

報告会の参加は要予約。

問い合わせは同店、電話0

5500(444)1950。

(土曜休)



東日本大震災被災地の復興を願ってオカリナを演奏する茨城県入
と中津市立1120日午後7時5分、本紙出版局、うすす公園
(撮影・野尻博一郎)

オカリナの音 被災地に祈り

東日本大震災の被災地を巡り、オカリナ奏者の茨城那さんによる「オカリナ奏者東日本震災チャリティーコンサート」(同実行委員会主催)が20日、本紙出版局板所のうすす公園で開催され、被災地の復興を願って山あいに着き渡るオカリナの音色が聴衆を引き付けた。

19回目を数える夏恒例のコンサートだが、今回は震災を受けチャリティーコンサートとし、入場料などの収益金は被災地に送る。

コンサートは3部構成で、根拠中学校の全校生徒38人による演奏と茨城那さんのソロ演奏、茨城那さんと中学生との合奏が行われ、計20曲を披露した。

合奏では「根拠の夏風が吹かれて」など3曲が演奏され、出演者らが被災地への祈りを込めて弾んだ「ハニー」を響かせた。

また、期間中は被災地の現状を撮影した聖那池田町出身の写真家大西暢夫さんが特別出演し、被災地の現状を語ることも継続的な支援を訴えた。

(撮影・野尻博一郎)